

第5節 環境施策の横断的・総合的な取組の推進

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

市民・事業者が第2次計画で目指す将来像について理解し、行動・活動している都市を目指します。具体的には、「持続可能な都市」についての理解を進めるための環境教育・学習の推進や、産学官民が連携した環境保全対策を進めることで、将来像の実現に向けて全ての主体が環境保全対策に取り組み、経済や社会の好循環を目指します。

【管理指標】

- ①多くの市民が第2次計画で目指す「持続可能な都市」について理解し、自ら行動している。
- ②北海道内の資源やエネルギーの地産地消を促進するため、札幌市と道内自治体をはじめ、様々な主体による連携が普及している。

〈本節に関するSDGs〉



2 2030年の姿に対する現状と課題

毎年実施している札幌市の温暖化対策推進に関する市民アンケート調査により、第2次計画で目指す「「持続可能な都市」について理解し、自ら行動している市民」の割合を把握しています^(※)。

令和2年度の調査結果から、「ごみの分別を徹底する(80.1%)」、「食材や日用品は無駄なく使い切るようにし、ごみを減量する(68.5%)」などの割合が高く、特に省資源・循環型社会に関する分野での実践が進んでいることがわかります。

一方、「札幌市が世界に誇るイベントを通じて札幌の取組を世界に発信する(2.5%)」、「環境に関する講演会や施設見学などに積極的に参加し、知識を深める(2.4%)」、「環境をテーマとする国際交流や国際協力に積極的に参加する(0.76%)」など、教育・学習・人づくりや

地球的視点・平和に関する分野での実践はあまり進んでいません。

また、札幌市と道内自治体をはじめとした様々な主体による連携の普及に向けては、関係者との情報交換等により、連携体制を構築するための検討を進めています。

管理指標の達成に向けては、市民や事業者、行政が連携しながら、様々な主体が環境行動を実践していくための支援の仕組みや参加しやすい場づくりを進めることで、多くの市民の持続可能な都市についての理解や行動の促進を図るとともに、道内資源やエネルギーの地産地消の促進に向けて、道内自治体との連携体制の構築に向けて取り組んでいく必要があります。

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

(1)幅広い世代への環境教育・学習の推進

札幌市では、平成31年3月に、環境教育・環境学習の基本的な考え方を明らかにするとともに、継続的に取組を進めていくための方向性を示した「札幌市環境教育・環境学習基本方針」を策定し、持続可能な社会の実現へ向け、環境について理解と認識を深め、自ら考え、判断・行動することのできる人を育てることを目標に、教育機関をはじめ、環境関連施設、市民活動団体、事業者等の様々な担い手と協働しながら取組を進めていくこととしています。

○主な環境教育・学習拠点施設

札幌市では、環境教育のより一層の推進を図るために、環境教育・学習拠点施設をはじめとした環境教育関連施設同士の連携を深めることで、効果的な環境教育の場を提供することを目指しています(表2-5-1)。

(※)「「持続可能な都市」を実現するために『第2次札幌市環境基本計画』で示す“地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編”を実践していますか」に対する回答(図2-5-1)

令和2年度 (N=1,320)

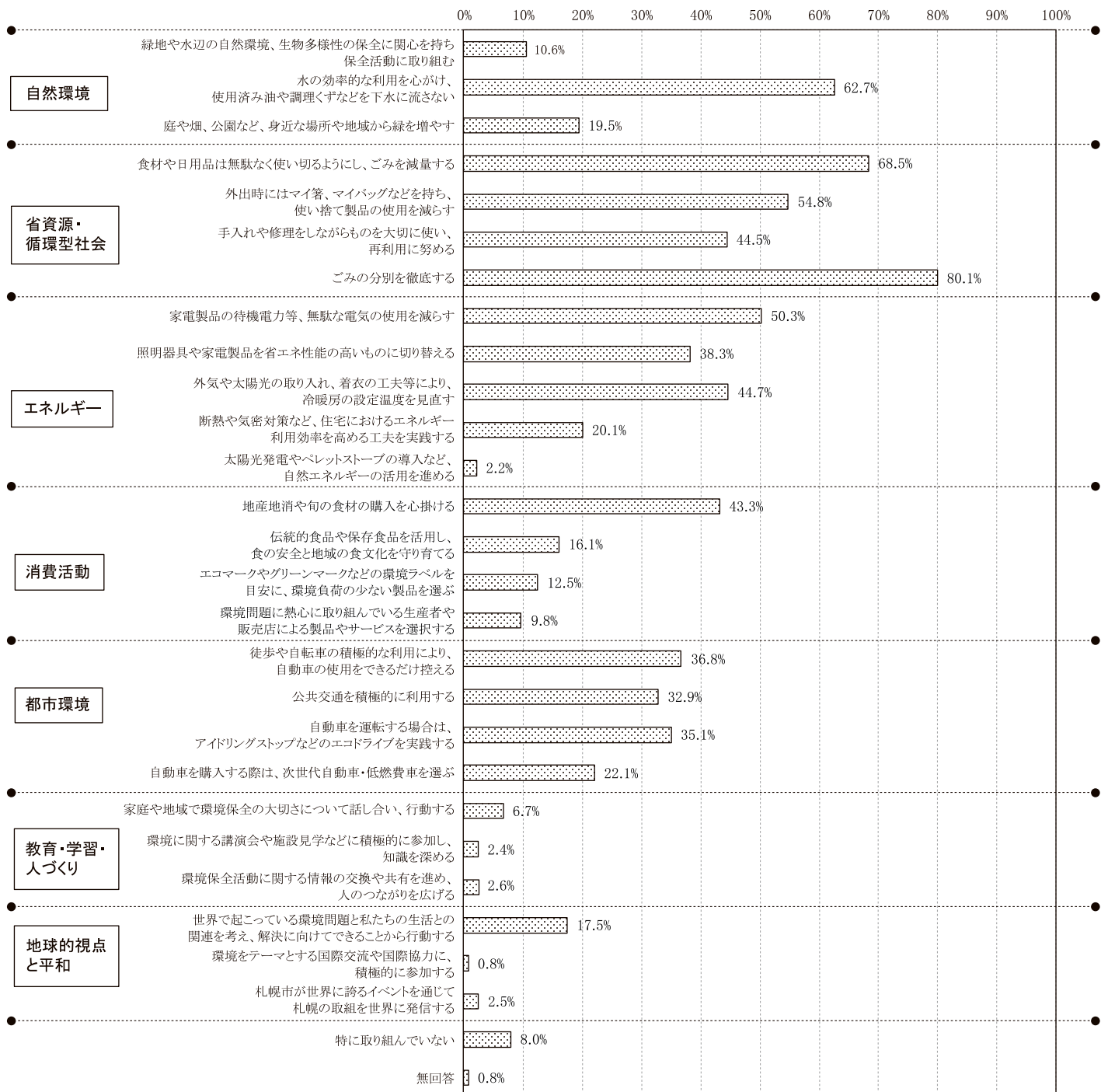


図2-5-1 令和2年度札幌市の温暖化対策推進に関する市民アンケート結果

表2-5-1 主な環境教育・学習拠点施設

環境 プラ ザ	施設概要		身近な環境問題から地球規模の環境問題を考えることができる展示コーナー、環境に関する講座・研修・会議といった、多目的に利用できる研修室、ミーティングルーム等
	主な事業	情報収集・情報提供事業	環境に関する施設・団体の紹介や、子ども向けの環境情報をホームページ等で提供している。また、環境関連の書籍、雑誌、ビデオ、DVDの貸出を行っている。
		広報・啓発事業	展示コーナーにおいて、隔月でテーマを決め、来場する市民へ環境情報を提供しているほか、市民等の環境保全活動への参加を促進する事業(幼児親子、小学生、一般向けなど)を企画し実施している。
		環境保全活動支援事業	小中学校における環境学習の施設見学の受入や、各種環境関連講座の開催、人材派遣事業、こどもエコクラブ支援事業、自然観察に必要な機材や環境教育教材の貸出を行っている。
リサ イ ク ル プラ ザ	施設概要		リユース家具等の展示コーナー(24日から月末前日まではエコ広場)、情報提供コーナー、資源回収コーナー
	主な事業	リユース品展示・提供	再使用を希望して大型ごみ収集センターに申し込まれ、発寒工房で清掃・整備した木製家具・自転車等を抽選形式により安価で提供している。
		ごみ減量活動支援	リユース品の展示提供や洋服の交換会などを行うエコ広場や、出前講座など各種教室講座を開催するほか、イベントへの参加、施設見学への対応等を通し、市民のごみ減量活動を支援している。
		情報収集・提供	ごみ減量に係る情報展示、関係図書・ビデオの閲覧・貸出のほか、情報紙「ごみニュケーションさっぽろ」の発行、ホームページでの情報提供を行っている。
リ ユ ー ス プラ ザ	施設概要		リユース家具等の展示販売や情報展示などを行っている屋内展示場、各種教室講座を開催する工房、屋外イベントスペースを備え、厚別地区リサイクルセンター(資源回収拠点)を併設
	主な事業	リユース品展示・提供	再使用を希望して大型ごみ収集センターに申し込まれた木製家具等を清掃した後、即売形式により、また、自転車を発寒工房で整備した後、抽選形式により、安価で提供している。
		ごみ減量活動支援	廃材を利用した木工工作教室など各種教室講座や、地域住民・市民団体などとの協働によるごみ減量への取組に関する内容のエコイベントを開催するほか、その他イベントへの参加等を通し、市民のごみ減量活動を支援している。 また、さまざまな資源物等を持ち込むことが可能な拠点として「厚別地区リサイクルセンター」を併設しており、再資源化への市民参加促進を行っている。
		情報収集	パネル展示やパンフレットの配架など、ごみ減量に係る情報提供を行っている。
山 動 物 園	施設概要		北方地域に生息する動物及び絶滅の危機に瀕した動物を含む多くの動物を飼育・展示する施設
	主な事業 (取組)	展示の工夫	動物たちの生き生きとした姿を見せる展示に加え、動物たちが関係する地球規模での環境問題について、説明看板等でわかりやすく解説することで、入園者が自発的に環境に考慮した行動をとる動機付けの場となるよう取り組んでいる。
		教育プログラム	入園者に命の大切さや環境問題について学んでもらうための取組の一つとして、動物の飼料を保管する冷蔵庫へのガイドツアーや、園内動物病院における獣医体験や骨格標本解説等のほか、アジアゾウやホッキョクグマの生息地やその環境問題について学べる講義や出前講座を行っている。
		情報提供	紙媒体で動物園の飼育動物に関する情報を市内全小学校へ発信することやホームページへの学習教材の掲載等を行っている。
水 道 記 念 館	施設概要		展示室全体で大自然から都会そして海へと向かう水の旅を表現し、水道を通して自然環境と人間の関わりを考え、水や自然の大切さを感じ取ることができる施設
	主な事業 (取組)	展示の工夫	体験型の展示物を多数設置し、楽しみながら水道について学べるよう工夫を凝らしている。また、更に理解を深めてもらうために、隣接する藻岩浄水場の見学ツアーや、ろ過実験などを毎日実施している。
		広報・啓発事業	小中学校における環境学習の施設見学の受入や、水にちなんだ工作会などを実施し、多数の来館者に、水道事業や水道の仕組み、さらにはその背景となる自然環境や水資源の大切さを学ぶことができる場を提供している。
		情報提供	ホームページで小学生向け学習プログラムの提供を行っている。
下 水 道 科 学 館	施設概要		普段見ることのできない下水道のしくみや水環境の保全に果たす役割など、札幌市の下水道の知識を楽しみながら理解してもらう広報施設。体験型の展示を通じて、新たな発見や驚きを実感できるような内容を盛り込んでいる。
	主な事業 (取組)	広報・啓発事業	下水処理のしくみ、下水道の役割、札幌市の下水道事業を市民に理解してもらうために、子どもたちが気軽に楽しめるイベントを開催する等、入館者の来館促進のための企画を行い、実施している。
		小学校バス見学支援事業	環境教育の一環として、下水道科学館及び創成川水再生プラザを見学する小学校を対象として、バス貸切料金を支援する事業を実施している。
		情報提供	下水道科学館のホームページを通じて、イベント情報のほか、下水道のしくみや下水処理に登場する微生物の紹介、下水道にまつわるクイズなど、積極的に情報発信を行っている。
豊 平 川 さ け 科 学 館	施設概要		サケ科魚類や札幌市内の水辺に生息する生物の飼育・展示、サケたちのエサやり体験ができる屋外観察池、実習館における採卵実習やイベント開催等
	主な事業 (取組)	学習支援	サケの生態や生息環境を通じ、環境保全について学んでもらうための取組の一つとして、小学校等の団体学習の受入及び支援を行っている。
		情報提供	サケ科魚類に関する情報展示・関係図書の貸出・閲覧の他、ホームページでの情報提供を行っている。
		連携事業	河川管理者や研究者らと連携し、野生サケの保全活動を行っている。 また、北海道大学総合博物館、動物園、水族館、科学館、図書館などと連携し、実物標本による普及啓発活動のための教材を開発している。

ア 学校・地域・企業等で行われる環境教育活動への支援の充実

実績

○人材派遣事業(環境保全アドバイザー制度、環境教育リーダー制度)

学校の環境学習や市民等の自主的な環境教育・学習を支援するため、市が委嘱した環境保全アドバイザーや環境教育リーダーを派遣しています。令和2年度の環境保全アドバイザーの派遣回数は17回(利用者数284人)、環境教育リーダーの派遣回数は32回(利用者数798人)でした。

○エコライフレポート

夏休みと冬休みの前に小中学校の全児童、生徒にエコライフレポートを配布し、休み期間のエコ行動を促しています。取り組んだ結果は、学校ごとに集計し「CO₂排出量」に換算して、各学校へフィードバックしています。この取組は、児童・生徒が家庭でのエコ行動の声掛け役となり、家族みんなに環境に配慮した行動を意識し、実践してもらうことにもつながります。

○環境副教材の活用

札幌市では、「総合的な学習の時間」等に対応して環境副教材(1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用の3種類)を作成し、市立小学校の1、3、5年生の全児童に配付しています。

○校外学習用バス貸出事業

学校における環境教育の充実を支援するため、環境関連施設の見学や自然体験など、環境教育に関する校外学習を行う小中学校向けにバスの貸出を行っています。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い事業は中止としました。

○環境教育へのクリック募金事業

環境保全活動に取り組む企業から、パナーへのクリック数に応じて提供される寄附を財源に、子どもたちへ環境教育教材を寄贈する、企業の社会貢献活動の仕組みです。令和2年度は、参加企業8社からの寄付を財源に、希望のあった市立小中学校43校に環境教育教材を寄贈しました。

○さっぽろこども環境コンテスト

小学生・中学生が普段学校や地域で取り組んでいる環境保全活動について発表する「さっぽろこども環境コンテスト」は、周囲の子どもたち、さらには大人たちにも環境保全活動の輪を広げていくことを目的として、平成20年度から実施しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、これまでのステージ発表にかえ、活動の様子を動画やポスターにまとめた発表作品を募集し、優秀な作品を表彰したほか、1月にオンライン形式で開催した「環境広場さっぽろ」の中でも、応募作品を紹介しました。

○環境教育・SDGsワークショップ

令和2年度から新たな取組として、子どもたちが環境保全を意識し、自発的な行動を起こすきっかけづくりを目的に、市内児童会館等の施設に通う小学生を対象に、オンラインを活用して交流・発表を行うワークショップを開催しました。

課題・評価

環境問題を取り巻く状況は日々変化するとともに、環境教育・環境学

習の重要性はますます高まっていることから、次世代を担う子どもたちへの働き掛けを続けるため、各取組の実施による効果を評価検証していく必要があります。

今後の方向

平成30年度に策定した「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、子どもたちが、環境について理解と認識を深めるとともに、自ら考え、判断・行動できるよう、事業の見直しを行いながら、各種環境教育事業を実施していきます。

イ 人材育成、市民・事業者等の協働による環境保全活動の推進

実績

気候変動対策・SDGsの推進に向けて、自らの行動できる担い手を育成するため、気候変動対策に関心の高い若者から大人まで、幅広い年齢層の市民とともに、持続可能な社会の実現に向けてどのように取組を進めて行くべきかを考える「札幌市みんなの気候変動ゼミ・ワークショップ」を令和元年度から実施しています。

令和2年度は、実際に農業や漁業などに携わっている方たちなど現場の声を聞きながら、札幌の気候変動や生物多様性に関する現状、取組状況などについて学ぶ内容で、オンラインにより計13回開催し、148名が参加しました。

課題・評価

先導的な役割を担う若い人材を育成するためには、サポートする人や事業者の理解と協力や、育成の過程で環境保全行動を実践できる場等といった環境を整える必要があります。

また、ワークショップ等による対話の場を通して人材の発掘を継続していくことも必要です。

今後の方向

気候変動対策やSDGsについて考え、対話することのできる場として、市民参加型のワークショップ等を開催するなど、引き続き意見交換や検討の場を設けるとともに、新たな事業を検討し、環境行動の輪を広げていきます。

ウ 環境保全活動の実績等に係る情報収集・発信

実績

○さっぽろこども環境コンテスト

※第5節「(1)幅広い世代への環境教育・学習の推進」-「ア 学校・地域・企業等で行われる環境教育活動への支援の充実」に掲載

○さっぽろエコメンバー登録制度

環境に配慮した取組を自主的に行っている事業所を本市独自の基準に基づき登録し、その取組内容を広く市民等に紹介する「さっぽろエコメンバー登録制度」を平成20年(2008年)から行っています。令和2年度末現在で1,824件の事業所が登録されています。

○環境報告書展

事業者の環境保全活動として、「環境報告書展」を毎年開催しています。本報告書展は、事業活動における環境負荷や環境配慮の取組状況をまとめたCSR報告書・環境報告書等を収集し広く公開する

ことにより、事業活動に対する理解を深め、環境保全行動が一層推進されることを目的としています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、本報告書展をオンラインの仮想空間を会場とする環境総合イベント「環境広場さっぽろ2020バーチャルツアー」の中で開催し、企業・団体等54件の出展がありました。

課題・評価

市民や事業者等に対する環境保全活動の動機づけや、活動の支援、活動団体等の実績に係る情報の収集・発信を強化する必要があります。

今後の方向

より効果的な情報発信を行うとともに、新たな団体等への働きかけを進め、参加者（団体）の数を増やすことで、活動実績のさらなる収集・発信を図ります。

エ 環境問題や持続可能な都市への理解を促すための普及啓発

※第1～4節中でも関連実績等を掲載

実績

○札幌市環境白書による周知

毎年度、環境白書（本書・概要版）を発行し、本市の環境問題の現状や対策、取組状況等について周知を行っています。

○環境広場さっぽろ

市民団体、企業、行政等がそれぞれの立場から、環境保全活動の取組等を紹介し、交流することを目的とした総合環境イベントとして、平成10年度から「環境広場さっぽろ」を開催しています。令和2年度は、コロナ禍においても次世代を担う子どもたちが、楽しみながら環境やSDGsを学ぶことができる場を提供するため、札幌ドームをモデルとした仮想空間会場を用いてオンラインで開催しました。212企業・団体の出展があり、開催期間（1月9日から14日までの6日間）に19,806件のアクセスがありました。

○さっぽろキャンドルナイト

「さっぽろキャンドルナイト」は、1年で最も昼の長い夏至の日に明かりを消して、電気の大切さや環境のことを市民の皆さんに考えてもらうイベントです。市民団体、企業、行政等で構成される実行委員会が中心となり、観光名所や事業所、家庭での消灯を呼びかけるとともに、6月上旬から7月上旬までの期間、市内各所において実施される関連イベントを通して、環境保全に係る様々な取組について市民へ広く周知を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの人が集まるイベント等の呼びかけは見送り、ご家庭などで静かな夜を過ごすキャンドルナイトの写真やメッセージを募集し、実行委員会HPにて紹介しました。

課題・評価

より多くの方の理解を得るためには、啓発方法のさらなる工夫や、事業者等の協力者との連携、啓発活動を担う主体の育成が必要です。

今後の方向

気候変動や生物多様性、廃棄物等、各ジャンルの垣根を超えた啓発を進めるとともに、環境問題にあまり関心を持っていない人々へアプ

ローチするため、環境分野以外のイベントやプロジェクト等と連携し、SDGsの考え方も取り入れながら、総合的な啓発に取り組んでいきます。

また、様々な活動主体との連携や啓発活動を担う主体の育成を進めるため、各種イベント等を通じて事業者や市民との交流の機会を増やしていきます。

(2)環境側面からの経済振興

ア 環境産業の振興

実績

中小・小規模企業の発展を後押しするため、環境（エネルギー）分野の新製品・新技術の開発にチャレンジする企業の取組に対する補助を実施してきました。平成27年度の事業開始以降、延べ32件の製品・技術開発事業、4件の販路拡大事業を補助し、そのうち6件の事業化が実現されました。

課題・評価

環境（エネルギー）分野については新製品・新技術開発に意欲のある企業の開発案件が一巡した状況です。

今後の方向

事業の成果事例を伝えるなど、企業に環境（エネルギー）分野の可能性を伝え、新たな担い手を増やしていきます。

イ 事業者における廃棄物処理コストの削減

実績

○事業ごみの分別・リサイクル推進

※第3節「(2)資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理の推進」-「ア 家庭ごみや事業ごみの適正な分別」、「イ リサイクル活動の推進」で関連実績等を掲載

課題・評価

○事業ごみの分別・リサイクル推進

※第3節「(2)資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理の推進」-「ア 家庭ごみや事業ごみの適正な分別」、「イ リサイクル活動の推進」で関連実績等を掲載

今後の方向

○事業ごみの分別・リサイクル推進

※第3節「(2)資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理の推進」-「ア 家庭ごみや事業ごみの適正な分別」、「イ リサイクル活動の推進」で関連実績等を掲載

ウ 事業者による環境活動の普及支援

※第5節「(1)幅広い世代への環境教育・学習の推進」-「ウ 環境保全活動の実績等に係る情報収集・発信」、「エ 環境問題や持続可能な都市への理解を促すための普及啓発」で関連実績等を掲載

エ 都心部における環境配慮型まちづくりの推進

※第2節「(1)徹底した省エネルギー対策の推進」-「カ コンパクトで低炭素なまちづくりの推進」で関連実績等を掲載

オ 札幌の魅力向上に向けた取組の推進

実績

札幌市では雪を活用したイベントとしてさっぽろ雪まつりを開催しています。

雪まつりは、1950年に市民の雪捨て場であった大通公園7丁目広場において、市内の中高生が6基の雪像を制作・展示したことがその始まりです。集めて捨てるだけであった雪で雪像を制作し、市民が楽しめる憩いの場を作ったことで雪を観光資源として活用する考えが定着していきました。その雪まつりも成長を重ね、大小様々な雪像が織りなす迫力が国内外からも注目を集めるようになり、今では期間中に250万人を超える来場者と650億円の経済波及効果（平成29年度）がある、札幌市を代表するイベントとなっています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンラインでの開催となりましたが、雪まつりや札幌の冬の魅力を紹介する動画等を国内外に発信するなど、将来の誘客に繋がるような取組を実施しました。

課題・評価

雪まつりは「雪」があってこそイベントですが、近年では積雪の少ないシーズンもあり、雪の確保が困難となることがあります。集められる雪の中で、雪まつりの魅力をいかにして維持していくのが課題となっています。

今後の方向

雪まつりの象徴とも言える大雪像（5基）を維持していくとともに、これからは「見る」だけでなく「体験する」ことが求められていることを踏まえ、雪を活かした体験型のアクティビティを充実させるなどして、性別、年齢、国籍を問わず誰にでも楽しんでもいただける雪まつりを展開することで、雪という観光資源を最大限に活かしていきます。

カ 水素関連技術や製品の普及と利用拡大

※第2節「(3)水素エネルギーの活用」で関連実績等を掲載

(3)環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進

ア 環境保全対策に資する地域活動の拡充

※第5節「(3)環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進」

ー「幅広い年代が参加できる環境保全活動の機会の創出」でも関連実績等を掲載

実績

○集団資源回収

札幌市では、町内会や学校PTAなどの地域住民団体が、各家庭から出る資源物を集めて資源回収業者に引き渡すリサイクル活動を推進するため、奨励金を交付しています。令和2年度は4,281団体が活動に取り組み、41,255tの資源物を回収しました。

○各区での取組

中央区では、アダプト・プログラム支援事業として、企業や町内会、商店街などの団体が、地域の道路における清掃活動などの環境美化活動のほか、冬期間の歩道への砂撒きを行いました。

北区では、アダプト・プログラム支援事業として、企業や商店街などの団体が、地域の道路清掃や地域住民らで植花した花壇の管理などの環境美化活動を行いました。

また、麻生地区では北区に根ざした歴史的資源である亜麻を活用した景観づくりを地域団体である「あさぶ亜麻保存会」が中心となっており、この住民主体の活動が、地域の活性化に寄与しました。

さらに、集めた家庭用廃食油を隣接する当別町のコミュニティバスで用いる燃料の原材料として提供しました。

東区では、「東区まち美化プログラム」を実施し、企業や団体と区が協働により、道路清掃などの美化活動を行いました。また、花による魅力ある街並みづくりの形成を目指し、地域美化及び交流の促進を目的として「フラワーロード事業」を実施、地域住民等が主体となりモエレ公園通と北8条通において植花活動を行いました。

白石区では例年、地域の関係団体とともに「月寒川にぎわい川まつり」を開催し、子どもたちが地域の身近な自然に触れ、川の生態系の観察や水環境についての認識を深めるとともに、自然環境について考えるきっかけを提供していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

豊平区では、美しい街並みを目指すとともに地域の連帯やふるさと意識を育むことを目的とした「とよひらHANA-LAND事業」を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小したものの、地域住民をはじめとする多くの方々が参加し、区内をたくさんの花で彩りました。

また、「とよひらまちづくりパートナー制度」に参加する企業等が町内会と連携して行う植花活動や清掃活動等も、新型コロナウイルス感染症の影響で限定的ではあったものの実施したほか、「豊平区アダプト制度」においても、参加している企業等が道路清掃等の環境美化活動を行いました。

清田区では例年、NPO法人札幌清田ホテルの会との協働により、6月に「ホテル幼虫放流式」、7月に「ホテル観賞会」を区役所裏のホテル池で実施していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からいずれも開催中止とし、次年度以降の開催に向けてホテル池の清掃及び整備を行いました。

西区は、市内唯一の環境モデル区（2007年度からは環境推進区）として、町内会、学校、企業、NPO法人などからなる「西区環境まちづくり協議会」が中心となって、環境活動に取り組んでいます。

「エコキッズ・プログラム」「西区コドモ自然学校」では、小学生を対象に琴似発寒川や五天山公園で自然活動体験会を実施しました。

また、「ラジオで西区環境広場」を実施し、ラジオ放送での情報発信を通じて、環境活動やSDGsの普及啓発を行いました。

その他、環境に関する映画の上映を行う「エコ映画会」、自然体験を通じて自然の大切さについて学ぶ「西区子ども体験学校」等、環境教育・学習のための様々な取組を実施しています。

課題・評価

○集団資源回収

集団資源回収で回収した資源物の99%が新聞・雑誌・ダンボール・紙パックなどの紙類であり、これらを資源としてリサイクルすることで、森